



# 栄光の未来

R5.4.28 発行

第1号

## 「『生徒が主役』の学校」をつくろう！

新潟市立東石山中学校長 永井 一哉

4月に着任して1か月が過ぎました。毎日、廊下ですれ違う生徒と交わすあいさつや、休み時間に校長室を訪れる生徒との何気ない会話から元気をもらっています。このようなことを通して、自分は「明るく、素直で、いろいろなことに一生懸命に取り組もうとする意欲のある生徒が多く集まっている学校」という印象を受けました。

このような皆さんの姿から、この東石山中のさらなる発展の可能性を強く感じています。そして、この東石山中の発展・向上に向けて、生徒・教職員・保護者・地域の皆さんとともに取り組んでいくことが、自分の使命であると考えています。

言うまでもなく、学校の主役は生徒です。自分が校長として目指す学校づくりの原点はここにあります。大人が考えた枠の中に生徒をはめるのではなく、また、大人が敷いたレールの上を生徒に進ませるのではなく、学校の主役である生徒自身が自分たちの学校生活の在り方を考え、自分たちの判断と決定で学校生活をつくっていく。これこそが、「生徒が主役」の学校の根幹をなすものだと考えています。

こんな学校を目指すにあたり、生徒の皆さんに期待することがあります。



「あいさつ・返事・掃除」の3本柱を大切にしています。

### 「生徒の手による学校づくり」を推進するために…

- 自分たちの「目指す姿」を見据えて、その達成に向けて取り組もう！
- 慣例や前例にとらわれず、新たなことにチャレンジしていこう！
- 「生徒全員にとって」の視点で、責任と勇気をもって判断・決断しよう！

この、「生徒の手による学校づくり」の中核を担うのが生徒会です。自分は、生徒会の取組に大きな期待を抱いています。全校生徒455人で組織する生徒会が本気になれば、できないことはそうそうありません。そういった意味からも、大人の考えをはるかに超えるだけの知恵とアイデアを全校で絞り出し、他のどこにもない、最高の東石山中学校を自分たちの手で創り上げていきましょう。



### 自己紹介 ～ 実は、学区の住民なんですよ～

4月に、同じ東区の大形中学校より異動となりました。東石山中学校は校長として勤務する4校目の学校になります。そして、おそらく自分が最後に勤務する学校になると思います。



もともとは理科の教員です。生き物が好きで、校長室には置き物も含めてカエルがたくさんいます。カエルは縁起のいい、幸運を運ぶ生き物と言われています。

校長室だよりを月に何回か発行して、自分の思っていることや考えていることを発信させてもらいます。どうぞ、よろしくお願いします。



(上) 生徒総会に向けて、議案書の学級審議に取り組む生徒たち  
(下) 1年生の教室では、先輩が学級審議の進行をサポート！